

## 二宮町町民活動推進委員会 第2回議事録

日 時：平成30年8月23日（木） 18：30～20：00

場 所：二宮町役場 第1会議室

出席者：手塚委員長・大河原副委員長・岡本委員・齋藤委員・高橋委員・伊達委員  
豊田委員・山岡委員・黒石委員

欠席者：なし

事務局：地域政策課3名 まちづくり推進員1名

傍聴者：0名

### 会議概要

#### 1. 開 会

#### 2. あいさつ

平成30年度第2回町民活動推進委員会にお集まりいただき、ありがとうございます。  
最近の話題として、先日、西日本の豪雨があったが、私の関係者で中間支援を行っている若い3名が真備町の社協ボランティアセンターで人を手配する支援を行い、しっかり勉強して戻ってきた。東日本、特にこの湘南エリアは話題に上る。ボランティアの立場として、沿岸部では災害の際に自分たちに何ができるかなどを考え、トレーニングをしていく必要性を感じたところである。本日は、よろしく願いいたします。

#### 3. 議題

##### (1) 平成31年度町民活動推進補助金について

(事務局) 変更案は、審査基準の8項目にて、審査員が各項目10点ずつ、合計80点満点で採点をする。その採点の結果、合計が40点以上（平均5点）の審査員が半数以上かつ公益性の点数6点以上の審査員が半数以上で補助対象とする。また、審査員全員の合計点数の平均が48点以上の場合、減額を行わず、申請額どおりとするが、48点未満の場合は、審査員全員の「経費の妥当性」の平均点数に応じ、減額を行う。千円未満は切り捨てるものとする。なお、予算の範囲を超え申請があった場合は、総合計の順位で交付団体を決定するものとする。

(委員長) 今の時代、情報開示は必須になるので、点数などを、どこまで公開するのかを考えながら議論をしていく必要がある。

(委員) 合計が40点以上（平均5点）の審査員が半数以上かつ公益性の点数6点以上の審査員が半数以上ということは、どちらかが欠けたら交付対象とならないのか。

- (事務局) そのとおりである。
- (委員) 各項目を5点満点から10点満点に変更するのはよいが、従来は交付対象の基準点数が6割であったのに交付基準が5割になる理由がわからない。
- (事務局) これまでは5点満点であり、3点を合格点としてきた。10点満点にした際、5点は3の下、6点は3の上という考え方で、団体を育てる観点から5点でも交付対象とする案を提案した。
- (委員) 2つ質問をしたい。1つは、今まで申請した団体で不交付団体はいくつあるか。また、その団体から意見や質問は出たのか。もう1つは、審査結果の点数が各団体に公開されているか。
- (事務局) 平成18年度から本年度までで不交付団体は3団体で、不交付理由は、町づくりの効果が不明瞭であると判断された団体が1団体、公益性がないと判断された団体が2団体となっている。また、不交付団体から、情報の開示請求はなかったと記憶している。審査結果は、審査員全体の各項目の平均点のみを伝えている。
- (委員長) 理由を聞かれたが、点数が足りなかったと説明するだけで詳細は説明していない。
- (委員) 審査基準の変更案は、公益性を重視しているようには感じられない。
- (委員長) 公益性の項目は従来、8項目の中の1項目でしかなかったが、今回の変更案は、交付対象を決める基準となっており、以前より公益性が重視されている。公益性と経費の妥当性の項目をそれぞれのカテゴリーとして確立させ、残りの6項目はそれを補完するということによろしいか。
- (全委員) 異論なし
- (委員長) 変更案について、交付対象の基準点数は、審査基準8項目の平均点は5点以上で、かつ公益性が6点以上となっているが、5点と6点でわけると審査する際、わかりにくいのではないか。
- (委員) 5点が合格なら、委員は5点を合格基準として点数をつけるので問題はない。しかし、6点のほうが合格点というイメージはもてる。
- (委員) 色々な考え方があるが、審査員が公益性を重視しながらこの基準で点数をつければ、問題は無いと考える。
- (委員長) 合計点が6割から5割となったが、幅広い団体に助成金を活用していただき、町民団体を育てていくという観点から5点とした事務局案を採用してよろしいか。
- (全委員) 異論なし
- (委員長) 最後に、予算を超えた場合はどうするか。予算ギリギリまで申請額より低くなったとしても交付するか、それとも中途半端な額になってしまうものは不交付とするか。
- (委員) 予算は100万円か。
- (事務局) 本年度は100万円だが、申請見込み団体等を勘案して、来年度予算は要求する。また、これまで、予算の枠をスタート支援とステップアップ支援を分けてこなかったが、スタート支援は、11月末まで申請可能なので、スタート支援の枠として予算を確保して

おくべきと考えている。また、ステップアップ支援について、予算の枠を超えたため、不交付となった団体については、残額を交付するのではなく、不交付とした方がよいと考える。想定していた金額より少ないと、その団体の事業計画と大きく異なる点が出てきてしまう。

(委員) 可能性は残しておいていいのではないか。例えば、3万円の交付しかできない場合、その団体に聞いて3万円ならいらないと言われてたら交付しない。3万円でもほしいとなったら交付すればよいのではないか。

(委員長) 20万円申請して予算枠により、3万円となっても、補助金を受ける回数にはカウントされるため、しっかり団体に確認して、決定するということがよいのではないか。

(委員) 現在は、予算を超えた場合どのように対処しているのか。

(事務局) これまで、予算を超えるということはなかった。

(委員) 過去にそのようなことがないなら、団体に確認ということでもよろしいのではないか。

(委員長) 交付対象となって予算を超えてしまった団体については、予算枠いっぱいには交付する。交付を受けるか受けないかは、その団体に確認し、委ねることとする。

## (2) 町民活動団体をつなぐ方法について

町民活動団体をつなぐ方法（町民活動推進補助金活動報告会）について、事務局より説明

(委員長) 従来だと1時間ほどの報告会だが、変更案としては、ワークショップを含め2時間ほどの報告会となる。なにかご意見などあるか。

(委員) 兵庫県に以前住んでいたが、助成金を申請している団体と申請する前の団体を集める機会があったが、二宮町でもそのような機会があればよいと思う。

(委員長) 補助金の説明会などはあるか。

(事務局) 過去は説明会を行っていたが、現在は行っていない。人が集まらない状況であったと聞いている。

(委員) 補助金で1年に最高20万円は町民活動団体にとって非常に大きな額で、それを3年間受けることができるが、申請団体が少ない。町民活動団体が集まる機会があれば、つながりが広がり、申請団体が多くなるかもしれない。

(委員長) 以前、二宮町でも助成金の活用のセミナーを行った。その際、参加者からは助成金の手続きやノウハウなど、こんなに簡単なものだったのかと感想をいただいた。この補助金以外の町の助成金、補助金等で説明会を行っているか。

(事務局) 行っていない。

(委員長) このワークショップ形式の町民活動推進補助金活動報告会はいかがか。

(委員) 従来の報告会は面白みがない。変更案をやってみて改善点があれば、少しずつ改善していけばよいのではないか。ボランティア団体がリストとしてまとまっていれば、町民活動団体につながるきっかけになるのではないか。

- (委員長) サポートセンターで会報誌などは出さないのか。
- (事務局) まだ出していない。
- (委員長) そのような話が出たり、引っ込んだりしている気がしている。町民が町民を取材すれば、より町民の目に届くようになると思う。逗子などでは月に1度取材に行って、それを記事にして市民団体に配っている。同じ予算をつけるのなら取材をする人たちの取材費、印刷費などをつけていただいたほうがよいのかなと感じる。このワークショップ形式の報告会は面白そうなので一度やってみましょう。
- (委員) このワークショップ形式のやり方、方法があまりわからない。どのように町民活動団体に呼びかけるのか、また、どのような時間配分でどのように進めていくのか。
- (委員長) 報告会は来年の5月になるので、今回は発題として受け止めて、次回以降の委員会で作りこみをしていく。
- (委員) 私も報告会がつまらないと思っていたので、とてもいい考えだと思う。報告会はつながりを作るほかに情報発信の場だと思っている。現在の報告会は委員に報告をするような形なので、町民活動団体の情報発信のモチベーションがあがらない。町民活動団体に関心のある人が集まれば、発表団体の情報発信のモチベーションが上がる。そのためには一般町民の参加が大切であって、今の形式だと報告団体以外の人は来ないと思う。例えば、過去に補助金を受けた団体などに声をかけ、過去の団体も少し発表する場を設ける。口頭の発表でなくても紙媒体などのポスターを掲示するだけでもいいので、自分たちの活動をアピールしていただき、補助金を受けた団体の報告も聞いてもらう。そのような形にしたら報告会の参加人数が増えるかもしれない。ポスターを掲示することになったら休憩時間を15分など長めにとれば、見る時間が確保できる。
- (委員長) 5月ごろであれば団体の活動が落ち着いてきていると思うので、イベント的なものにしていいのかもしれない。
- (委員) 未病センターと観光をつなげるイベントに参加させていただいた。大学生などがリードをしてくださったので、とてもわかりやすくいいイベントだった。
- (委員長) 次回の委員会開催はいつごろか。
- (事務局) 10月下旬ごろを予定している。
- (委員長) それまでに、先ほどのようなイベントに参加したときの経験などを話す時間を次回の委員会で設けるので、アンテナを張って過ごすようお願いをする。報告会を変えていくということに賛成いただいたということで終わりとする。

### 3. その他

#### (1) 補助金交付団体の活動現場確認について

各補助金交付団体の活動現場確認を行う委員を決定した。

#### (2) 日程調整

次回開催：10月24日（水）18時30分～ 第1会議室

#### 4. 閉会